

横浜市市民活動支援センター事業評価報告書

平成27年3月

横浜市市民協働推進委員会

<目次>

1	経緯	1
2	横浜市市民協働推進委員会委員	1
3	横浜市市民協働推進委員会開催経過	1
4	横浜市市民活動支援センター事業評価基準	1
5	評価対象事業	1
6	評価講評	2

【別紙】 横浜市市民活動支援センター事業評価基準

1 経緯

平成 26 年度横浜市市民活動支援センター事業について、横浜市市民協働推進委員会は、評価基準に基づき、事業報告書等の書類及びヒアリングにより、事業の評価を行ってまいりました。

この度、評価結果を、報告書にまとめましたので、ここに提出します。

2 横浜市市民協働推進委員会委員

役 職	氏 名	所 属 等
委員長	小濱 哲	横浜商科大学貿易・観光学科教授
委 員	奥山 千鶴子	特定非営利活動法人 ビーのびーの理事長
委 員	酒井 正樹	社会福祉法人横浜市社会福祉協議会地域活動部長
委 員	時任 和子	特定非営利活動法人 夢・コミュニティ・ネットワーク理事長
委 員	中島 智人	産業能率大学経営学部准教授
委 員	治田 友香	関内イノベーションイニシアティブ株式会社代表取締役
委 員	松村 正治	恵泉女学園大学人間社会学部現代社会学科准教授 特定非営利活動法人 よこはま里山研究所 NORA 理事長
委 員	三輪 律江	横浜市立大学大学院国際総合科学群准教授

3 横浜市市民協働推進委員会開催経過

委員会	開催日	内容
第 1 期第 5 回委員会	平成 26 年 6 月 9 日 (月)	○ 横浜市市民活動支援センター事業（運営事業・自主事業）の事業計画について、事業実施団体から説明及びヒアリング
第 1 期第 7 回委員会	平成 26 年 12 月 12 日 (金)	○ 横浜市市民活動支援センター事業（運営事業・自主事業）の市民活動支援センター事業部会での中間振り返り結果について、事務局から報告
第 1 期第 8 回委員会	平成 27 年 3 月 9 日 (月)	○ 横浜市市民活動支援センター事業（運営事業・自主事業）の事業報告について、事業実施団体から説明及びヒアリング

4 横浜市市民活動支援センター事業評価基準

別紙「横浜市市民活動支援センター事業評価基準」のとおり

5 評価対象事業

(1) 横浜市市民活動支援センター運営事業部門【5か年事業】

実施主体：特定非営利活動法人市民セクターよこはま

(2) 横浜市市民活動支援センター自主事業部門【3か年事業】

「みんなで作る！『市民活動百貨』（仮称）～若者の参加による活動体験データベースの作成とマッチングと協働の仕組みづくり」

実施主体：特定非営利活動法人アクションポート横浜

(3) 横浜市市民活動支援センター自主事業部門【3か年事業】

「地元企業の若手社員×大学生の地域課題解決力を高め合うコミュニティづくり」

実施主体：特定非営利活動法人エティック

6 評価講評

(1) 横浜市市民活動支援センター運営事業部門【5か年事業】

実施主体：特定非営利活動法人市民セクターよこはま

評価項目	評価の着目点	講 評
管理運営	横浜市との協働	<ul style="list-style-type: none"> 各区の支援センター機能の検討など、横浜市職員との連携のもと事業を進めている点が評価できます。 各区の支援センターの運営支援について、区の地域力推進担当や地域振興課など、関連する組織と積極的な連携が図られています。
	自主事業団体との協力・調整	<ul style="list-style-type: none"> 交流会を増やすなど、実質的な連携が深まることを期待します。
	職員の確保及び育成	<ul style="list-style-type: none"> 多種多様な事業を推進することで、職員の育成が進んでいます。 今後は、意図を持ったOJTを実施し、中堅スタッフの指導、監督力の強化などに取り組むことを期待します。
	予算	<ul style="list-style-type: none"> 特になし
	事務管理や危機管理	<ul style="list-style-type: none"> 防災マニュアルについて、帰宅困難者一時滞在施設の開設を想定した見直しを行った点などが評価できます。 危機管理については、行政側に蓄積されたノウハウを最大限活用することを望みます。
事業計画	相談対応業務	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決取組調査（アンケート）による市民活動団体の実態把握や、相談事例の蓄積と定期的な分析、ケース検討が行われており、著作権や協働契約に関する相談など、具体的な相談対応に活かしている点が評価できます。 一方で、もう少し丁寧に分析を行い、利用者の裾野を広げる取組に繋げていくことを期待します。 また、課題解決取組調査については、調査に対し、回答のなかった団体についても分析を進めることを望みます。 センター職員が相談対応を行うだけでなく、相談者同士の学び合いの機会も提供されている点が評価できます。
	情報提供・発信業務	<ul style="list-style-type: none"> 各種のメディアや、情報コーナーを始めとした発信場所の活用に工夫が見られます。 一方で、情報発信等のあり方について、広く意見を聴取することや、ホームページ等の閲覧数を意識することなどを通じて、より広い層に訴求していく取組に繋げることを期待します。 情報紙（アニマート）のテーマ決定について、市民活動関係者を交えた企画会を開催している点に工夫が見られます。本情報紙のテーマに合わせて、多くの人が集まるイベントの開催を検討することを期待します。

	<p>共同オフィス事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> 交流会については、実施方法に工夫がみられ、定着が図られています。一方で、共同オフィス入居団体であることをもっと効果的にPRする方法を伝える等、入居団体への一層の手厚い支援を期待します。
	<p>各区の市民活動支援センター事業との連携や運営支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域づくり大学校の側面支援については、事業に関わる各区のNPOを支援する体制を組み、区域の小規模なNPOが力をつける機会に繋げることを期待します。 各区の支援センターは、自治会・町内会といった、いわゆる市民活動団体やNPOとは異質の対象も、生活者の視点で捉え対応していく必要もあると考えますが、その点を踏まえた、各区の支援センターの側面支援が行われている点が評価できます。 毎年度、着実に取組を進め、各区の支援センターの職員も研修に積極的に参加しており、各区の支援センターとの関係が時と共に成熟している点が評価できます。今後は、研修で得たスキルや情報をどのように区民に向けて活かしたか、という観点からも成果を示せるように取組を進めていくことを望みます。
	<p>事業実施計画</p>	<ul style="list-style-type: none"> 事業は、おおむね順調に実施されていますが、その報告については、実施結果だけでなく、対目標成果が明確に読み取れるような工夫を期待します。
<p>総評</p>	<p>■期待を上回った</p>	<ul style="list-style-type: none"> ネットワーク構築事業として実施した課題解決取組調査は、市内の地域活動・市民活動の実態を把握する上で有意義であり、公設民営の支援センターだからこそできる、地域の課題を集約し、市・区に伝えるという役割を積極的に果たしています。調査結果を踏まえて、次年度、課題解決に向けた学び合いの場をつくることとしている、「介護保険改正に伴う地域支え合いの再構築」というテーマは、これまで地域福祉に積極的に取り組んできた横浜市の事例が、他自治体に対するモデルとなる可能性があり、市民活動団体やNPOだけでなく、自治会・町内会も巻き込むことにより、福祉分野における、地域福祉の新しい形を構築していくことを期待します。 課題解決取組調査や他の利用統計等を基に、支援センターの利用者層を分析、整理しつつ、今後どのような層を、支援センター運営事業のターゲットとしていくか検討を進めることを望みます。 市民活動団体の課題を見据えた情報提供や人材育成研修、各区の支援センターとの連携など、細部にわたり非常に丁寧に事業を進めています。また、毎年度、課題を整理し、解決に向けて動き、自己評価して、次年度に活かしている点が評価できます。 今後も区役所や他の行政担当者などとの連携事業を意欲的に進めていくとともに、力が十分に発揮できず、まだ可視化されていない市民活動団体に対するサポートを充実させることを期待します。

(2) 横浜市市民活動支援センター自主事業部門【3か年事業】

事業名：「みんなで作る！『市民活動百貨』（仮称）～若者の参加による活動体験データベースの作成とマッチングと協働の仕組みづくり」

実施主体：特定非営利活動法人アクションポート横浜

評価項目	評価の着目点	評価講評
事業運営	横浜市市民活動支援センター事業を担う他の団体との協力・連携	事業を通じた連携等、実質的な連携が深まることを期待します。
	予算	プロボノの協力を得て、予算を抑えたことに工夫が認められますが、費用対効果を意識した事業実施に努めてください。
事業計画	事業内容	<p>SPICE+の名称がよく、ウェブサイトもたいへん読みやすいサイトになっています。体験による動機づけにつながり、学生の参加者も予想以上だったことは評価できます。また、各団体を回って、精力的に活動を行っていることも評価します。</p> <p>今後は、関心の低い人でもアプローチしやすいプロセスとするよう努めるとともに、事業で見えてきた、ボランティアを求めながらも受け入れ態勢ができていない団体、定着できない現状の課題解決につながることも期待します。</p> <p>また、良い記事を書き載せることが大事か、記事を書く場を巻き込むことが大事なのか、整理してほしいと思います。</p>
	事業計画	概ね計画通りであったと思いますが、ウェブサイトへのヒット数など、目標を明示したうえで計画を立てることも必要だと思います。
	期待される効果	<p>ウェブサイトができたのは収穫であり、良くできていたと思います。</p> <p>一方で、サイトの構築は手段であり、目標達成に向けた働きかけが今後の課題です。今後は、誰にとって、どういう利益があるのかを明らかにするため、アプローチ先をリスト化するなどして、働きかけた成果の検証を期待します。</p> <p>また、まだ活動が閉鎖的であることは否めません。ぜひオープンで継続的な事業へ発展していくことを期待します。</p>
総評	■概ね順調に進んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 仮称であった事業名も決まり、ウェブサイトも完成するなど、試行錯誤の中にもしっかりと成果を出してきています。 さまざまな「体験」の場を提供すること自体、そこから「何か」が生まれ、これまで市民活動にあまり参加してこなかった若者（企業人・大学生）が活発に活動している姿は、新しい市民活動の可能性を感じます。 中間支援の進め方について、もう少し踏み込んだ考え方の提示と手法の考案を求めたいです。中間支援団体が成果を残すとともに、支援する団体に何を残すか（それは個別に異なるはずですが）をよく検討していただきたいです。 多くの利害関係者がこの取り組みに関係しており、それぞれプロジェクトにかかわる目的や、そこから得られる成果が多様であると思われます。その多様な成果を整理し、利害関係者ごとにモデル化できるようになれば、補助金以外の資源を獲得できる可能性があるように思われます。今後、受益者ごとの「成果」を整理することを求めます。 第三者としてNPOを取材レポートすることで、NPOの社会的価値を高める取組みは面白いです。引き続き団体側の理解や、若者のスキルアップに努めてください。

(3) 横浜市市民活動支援センター自主事業部門【3か年事業】

事業名：「地元企業の若手社員×大学生の地域課題解決力を高め合うコミュニティづくり」

実施主体：特定非営利活動法人エティック

評価項目	評価の着目点	評価講評
事業運営	横浜市市民活動支援センター事業を担う他の団体との協力・連携	地域課題解決に係る経験が豊富な団体と連携を深めることにより、事業が円滑に進捗することを期待します。
	予算	状況に応じて予算執行の見直しを適宜行うなど、柔軟に対応していると思いますが、費用対効果を意識した事業実施に努めてください。
事業計画	事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・社会のニーズや実現可能性を十分に捉えていないように思われます。学生-企業-地域と多様な主体を巻き込んでいますが、それが手段になっており、事業目的が曖昧に感じられます。 ・企業側の課題認識や意欲の分析がまずは必要だと考えます。市民活動としての認知度を高めるためにも、企業が地域のニーズをどう受け取ったのかを見える化して情報発信することが必要だと思います。 ・経営者目線ではなく、企業就労者が地域との役割分担で果たすことへの気付き、その効果を捉えることを望みます。また、インターンシップ生が地域とどう繋がるのかについて、明確にすることも望みます。
	事業計画	<p>3週間での目標達成という事業計画や、地域社会の関係者への協働の働きかけについては、難しかったと思います。</p> <p>委員会での指摘、今年度の実績と振り返りから、次年度の方向を転換させたことについては、よい動きと思います。</p>
	期待される効果	<ul style="list-style-type: none"> ・認識のとおり、すぐには効果が期待できませんが、協働の糸口ができ、地域に入っていく企業ハードルを下げる取組だと思います。 一方で、社会実験としては意味があったかもしれませんが、持続可能な協働モデルとはなっておらず、まだ活動が一部の企業での閉鎖的なものであることは否めません。オープンな事業へ発展させるためにも、本事業で取組む企業と地域の数を増やしていただきたい。その中から、企業が地域コミュニティにどのようにかかわることができるのか、そのモデルを構築することにより、多くの企業が参加できるような事業になることが望まれます。 ・企業、大学生の役割分担が、整理されてきたところに進歩が見られますが、インターンシップの捉え方については、整理する必要があると思います。インターンシップの有効性について検証していただきたい。 また、計画的・意図的な関与・介入の成果と、自然発生的な結果が、報告の中で整理されていません。
総評	<p>■改善の余地がある</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・形式的にはかたちが整っているかもしれませんが、当初の事業目的はほとんど達成できていないようです。事業提案に向けた調査が不十分だったように思います。今年度の実験「失敗」を踏まえて、一般性のあるモデル構築に努めてください。 ・事業報告書の中に、「社員の教育研修」の意味合いが強くなることへの懸念が示されていましたが、逆に、社員の教育研修の場としてなら、より多くの企業が参加するものかどうか。継続的な事業の実施を踏まえ、さまざまな可能性を机上の議論だけではなく、試してみることも良いのではないかと思います。 ・次年度は、企業やインターン生にスタート時から趣旨にそった支援を行っていただきたい。タイトルの改題もあつたとおり、地元企業が地域課題解決の立役者として一端を担うことの意味付けをしっかりと検討した内容へブラッシュアップすることを期待します。また、地域の変化が伝わるようにしてほしいと思います。

横浜市市民活動支援センター事業評価基準

(運営事業部門)

評価項目	評価の着目点	説明	特記事項	
			評価できる点	改善が望まれる点
管理運営	横浜市との協働	横浜市との協働にあたり、協働の基本理念や行政に対する理解が深まったか。		
	自主事業団体との協力・調整	自主事業団体と相互に協力・連携が果たされたか。		
	職員の確保及び育成	安定的に業務を継続できる人員が確保され、育成されたか。		
	予算	経費執行が適正であるとともに、経費節減の工夫がなされたか。		
	事務管理や危機管理	不正経理や個人情報漏洩等の事故を未然に防ぐための計画や体制がとられ、緊急時の対応が可能な管理運営体制となっていたか。		
事業計画	相談対応業務	利用者のニーズに応える体制がとられ、利用者の満足度が高まったか。		
	情報提供・発信業務	利用者サービスを向上させるための有効な情報提供・発信が行われたか。		
	共同オフィス事業	共同オフィス事業を理解し、入居団体の自立支援や活動の活性化が果たされたか。		
	各区の市民活動支援センター事業との連携や運営支援	市と区の市民活動支援センター事業の役割分担を踏まえた連携や運営支援策が行われたか。		
	事業実施計画	実施時期や方法が適切で、成果があがったか。		
	<p>総評</p> <p>※いずれかにレ点</p>	<input type="checkbox"/> 期待を大きく上回った <input type="checkbox"/> 期待を上回った <input type="checkbox"/> 概ね順調に進んでいる <input type="checkbox"/> 改善の余地がある <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <input type="checkbox"/> 改善の余地がない		

横浜市市民活動支援センター事業評価基準

(自主事業部門)

評価項目	評価の着目点	説明	特記事項	
			評価できる点	改善が望まれる点
事業運営	横浜市市民活動支援センター事業を担う他の団体との協力・連携	横浜市市民活動支援センター事業を担う他の団体（自主事業部門・運営事業部門）と相互に協力・連携が果たされたか。		
	予算	経費執行が適正であるとともに、経費節減の工夫がなされたか。		
事業計画	事業内容	事業内容は市民活動のニーズを捉えたものであったか。		
	事業計画	実施時期や方法が適切で、計画通りに実施されたか。		
	期待される効果	市民の満足度が高まり、具体的な効果があったか。		
総評 ※いずれかにレ点		<input type="checkbox"/> 期待を大きく上回った <input type="checkbox"/> 期待を上回った <input type="checkbox"/> 概ね順調に進んでいる <input type="checkbox"/> 改善の余地がある <input type="checkbox"/> 改善の余地がない		